

Citation: Taixiang Wu, Juan Ni, Jiafu Wu. Danshen (Chinese medicinal herb) preparations for acute myocardial infarction. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2008, Issue 2. Art. No.: CD004465. DOI: 10.1002/14651858.CD004465.pub2.

CRG名: Heart

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 14 February 2008

Clib issue No.; N/U: 2008 issue 2; New

背景: 急性心筋梗塞(AMI)は、西側世界において虚血性心疾患の罹病率の最も重要な原因であり、死亡の主要原因の一つである。漢方薬であるタンジンは、中国において、AMIを含む幾つかの疾患の治療に広く使用されている。

目的: AMIに対するタンジン製剤の効果(利益と有害性の両方)を評価すること。

検索戦略: コクラン・ライブラリ(2006年第4号)のCochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE(1966年~2006年)、EMBASE(1980年~2006年)、およびChinese Biomedical Database(CBM)(1982年~2006年)を検索した。また、75種類の中国医学雑誌をハンドサーチした。

選択基準: 7日間以上継続されたランダム化比較試験(RCT)を探した。入手可能なRCTはほとんどないことが明らかであると考えられたため、その他の比較研究も検討した。

データ収集と分析: 3名のレビューアが適格性および試験の質を評価した。

主な結果: 2368例の参加者からなる6件の研究を選択した。1件の試験のみが真のRCTであると判定され、総死亡率低下について統計学的に有意差がないことを示していたが(Peto法でOR0.55、95% CI 0.23~1.32)、準RCTでは総死亡率の低下が報告されていた(Peto法でOR0.42、95% CI 0.23~0.77)。これらの試験を統合した結果、通常のケア単独と比較して、タンジン製剤と通常のケアの併用で治療した患者の死亡率は約半分であった(Peto法でOR0.46、95% CI 0.28~0.75)。

レビューアの結論: タンジン製剤の使用を支持するエビデンスは非常に弱く、その効果について何らかの判断を下すことはできない。RCTからのエビデンスは不十分なものであり、質も低い。タンジン製剤の安全性は証明されていないが、幾つかの有害事象が報告されている。タンジン製剤の臨床使用を支持するためには、質の高い試験からさらに多くのエビデンスを得る必要がある。

(監訳 澤村 匡史)

翻訳公開日: 08年7月12日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がありましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。